

令和6年度 小中一貫校 南アルプス市立若草南小 学校経営方針

I 若草地区小中一貫校教育目標

「よく学び 心豊かで たくましい児童生徒の育成」

目指す児童生徒像

自ら学び、深く考える児童生徒（知育）
 心豊かで 思いやりのある児童生徒（徳育）
 健康でたくましい児童生徒（体育）
 意欲をもち 最後までやり抜く児童生徒（意欲）

II 学校教育目標

「学びを深め 心豊かな たくましい子ども」

具 体 目 標 自ら学び 深く考える子ども (知)
 豊かな心で 思いやりのある子ども (徳)
 体をきたえ 最後までやりぬく子ども (体)

目指す学校像	育てたい児童像
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 笑顔あふれる学校 ➤ 学び合い 高め合い 信頼し合う 地域と共にある学校 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 人の痛みがわかる思いやりのある児童 ➤ 自分の考えをもち、チャレンジする児童 ➤ 若南プライドをもち、ふるさとを愛する児童

若南プライド：地域の歴史・伝統・文化に気づき、自ら学び、体験する中で 地域に誇りを持ち、自尊心を高める、積極的な活動に取り組む精神・自他の尊重・多様性を認め合う精神

III 学校経営方針

- 1 児童や地域の実態をふまえた適切な教育課程の編成と実施に努める。
- 2 「自ら学び 深く考える子ども」の育成を図る。
- 3 「豊かな心で 思いやりのある子ども」の育成を図る。
- 4 「体をきたえ 最後までやりぬく子ども」の育成を図る。
- 5 特別支援教育（特別支援学級・通級指導教室）の充実に努める。
- 6 児童の安全・安心を守り、家庭や地域に開かれた学校づくりを推進する。

IV 具体的な取組

1 児童や地域の実態をふまえた適切な教育課程の編成と実施に努める。

- (1) 新学習指導要領の理念をふまえた若草地区小中3校の9年間を見通した教育課程の編成と改善
- (2) 幼稚園・保育園・若草小学校・若草中学校との連携を考えた教育課程の編成
 - ◆中学生や園児との交流推進 ◆情報交換会の充実 ◆児童会・生徒会活動など、交流会の計画的実施
- (3) 各教科や道徳、総合的な学習の時間、学校行事を含めた特別活動など横のつながりと異学年間の縦のつ

ながりを考えた効果的な教育課程の編成

(4) 全教育活動を通じた体系的なキャリア教育の推進

◆地域探検や施設見学 ◆福祉体験 ◆栽培活動 ◆10歳を祝う会 ◆キャリアパスポートの活用

(5) 学校内外の教育資源の活用と体験学習の充実

◆地域教材・人材の活用 ◆体験的活動（地域学習を含む）

2 「自ら学び 深く考える子ども」の育成を図る。

(1) 学習意欲の向上や基礎的・基本的事項の確実な定着を意識した授業づくり

◆反復繰り返し学習 ◆市単講師によるTTや少人数指導

(2) 学習スタンダードに基づいた授業づくり

◆若南学習スタンダード（学習モデル・学習プロセス・学習ルール）の定着化

◆問題解決的な学習展開，見通しと「対話」のある授業づくり

(3) 『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な授業づくり

◆学習者が主体となる授業づくり ◆他者との協働的学習の場づくり

◆端末などのICT利活用 ◆各教科の特質に応じた言語活動の充実

◆外国語教育の充実

(4) SDGsの視点を取り入れた学習活動

◆自然環境，資源，貧困など地域，世界の諸活動について自らの課題として考える学習活動

◆若草地区3校の児童会・生徒会との協働活動の実施

(5) 組織的・計画的・継続的な校内研究の充実

◆学級づくりと授業実践を中心とした校内研究の推進 ◆一校一実践・一人一実践の取組

(6) 家庭学習の習慣化とアウトメディアの取組

◆家庭学習の手引きの活用 ◆家庭学習取組強化週間 ◆主体的に取り組む学びノートの活用

◆長期休業中のアウトメディアの取組 ◆SNS，オンラインゲームについての防犯講話実施

(7) 高学年における教科担任制の継続

◆専科教員が行う教科指導 ◆担任が交換授業として行う教科指導

◆児童及び職員の状況確認と改善

3 「豊かな心で 思いやりのある子ども」の育成を図る。

(1) 自分の大切さとともに他の人の大切さを認める人権教育の推進

◆人権尊重の理念に基づく教育活動

◆**話の聞き方** みとめ合い名人のアイコンタクト①いね②なずき③がおオッケー

あいづち名人④あなるほど⑤いねそれ⑥んうんわかるよへ⑦ーそうなんだ⑧ーすごい

◆場に応じた丁寧な言葉遣い

(2) 全ての子の居場所のある居心地のよい学級経営の充実

◆所属感，自己有用感，自己肯定感を持たせる取組の工夫 ◆スリンプルプログラムの実施

◆Q-Uの活用 ◆学校生活アンケートの活用 ◆SOSの出し方に関する教育の実践

(3) いじめ，不登校の早期発見と迅速・組織的な対応・指導

◆「学校いじめ防止基本方針」に基づく指導と見直し

◆いじめ調査（学校生活アンケート）の実施と活用

◆ケース会議の実施と共通理解による組織的対応強化，関係機関との連携

(4) 学校教育全体を通じた道徳教育の充実及び読書活動・音楽活動の推進

◆考え，議論する道徳の推進 ◆道徳公開授業の実施

◆朝読書の効果的实施 ◆図書集会の活用 ◆読み聞かせの取組 ◆歌声タイム ◆音楽会

(5) 児童会を中心とした仲間づくり・集団づくり

- ◆あいさつ運動 ◆縦割り班活動 ◆ボランティア活動
- (6) 集団生活のルールやマナーの徹底
 - ◆月ごとの生活目標 ◆あいさつ運動 ◆無言清掃 ◆全校集会や全校放送の活用
 - ◆**若南プライド**「心のやりとりきちんと**あいさつ**・心を向ける**返事**・心をそろえる**くつそろえ**」

4 「体をきたえ 最後までやりぬく子ども」の育成を図る。

- (1) 運動の日常化による基礎体力づくり
 - ◆体育的行事の計画的実施 ◆「健康・体力づくり一校一実践運動」の取組
- (2) 粘り強く最後までやり抜く意思を育てる指導支援
 - ◆体育授業の充実 ◆粘り強さを大切にした学習指導の充実
- (3) 基本的な生活習慣の確立と保健指導の充実，給食指導を中心に食育の充実
 - ◆たよりや掲示物，学級指導，保健集会の活用 ◆給食週間の取組

5 特別支援教育の充実に努める。

- (1) 児童の実態に応じた特別支援学級の運営
 - ◆校内支援委員会の定期的な開催
- (2) 特別支援教育の視点を取り入れた学級経営
 - ◆特別支援学習会の実施 ◆ユニバーサルデザインの活用
- (3) 交流学級・在籍学級の担任，保護者・関係諸機関との連携を活かした指導支援の充実
 - ◆機能的なケース会議開催 ◆外部の専門機関や関連行政機関との連携
 - ◆「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成と活用
- (4) サポートルームわかくさのセンター的機能の充実
 - ◆校内外のニーズをもつ児童のアセスメント ◆教育相談

6 児童の安全・安心を守り，家庭や地域に開かれた学校づくりを推進する。

- (1) 小中一貫校の取組推進
 - ◆若草地区小中3校との連携・交流 ◆地域人材の活用 ◆地域行事への参加・地域貢献
 - ◆学校運営協議会運営に向けての協議
- (2) 全教職員が「一致協力」，連携・協働し支え合う教職員組織「チーム若南」
- (3) 自らの命は，自ら守る「危険回避能力」の育成
 - ◆地震・火災想定避難訓練 ◆不審者対応訓練 ◆救命救急法訓練 ◆引き渡し訓練 ◆交通安全教室
自転車教室の実施 ◆起震車・煙体験の実施 ◆防犯講話 ◆危機管理マニュアルの充実と改善
- (4) 自己の健康安全に関する保健指導の徹底
- (5) 学校評価や保護者アンケートを活かしたPDCAサイクルによる学校運営，教育方針の改善
 - ◆自己評価・学校関係者評価の実施 ◆児童・保護者アンケートの実施
 - ◆行事後の教職員や保護者アンケートの実施と総括，改善
- (6) 授業参観，各種たより，HP，安心メールによる情報発信
 - ◆学校開放日，授業参観，学校行事への参加等教育内容の積極的公開
 - ◆学校通信・学年通信・学級通信・保健だより・図書だより・給食だより等の発行
 - ◆HPでの情報発信や安心メールを使った緊急連絡の活用
- (7) 学校評議員制度の効果的活用とPTAや地域との連携協力
 - ◆地域ボランティアの活用 ◆学校評議員会の開催 ◆PTA専門部の活動

◆ねらい

各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について目標を設定し、その達成状況を把握・整理し、取組の適切さを検証することにより、学校として組織的・継続的に改善を行うことができる。また、結果を公表することによって、保護者・地域住民と情報や課題を共有し改善を進めていくことができる。(開かれた学校づくり、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくり) 教師にとっては自分自身の教育活動を振り返り、改善をしていくひとつのきっかけになる。

◆日程

○アンケートについては、教職員、保護者、児童とも GoogleForms を利用する。

○第1回職員アンケート

・ 7月1日(月)～7月12日(金)に実施する。

○アンケート結果の比較・考察(第1回自己評価 夏休み中)

○第3回学校運営協議会(学校関係者評価委員会)

・ 9月3日(火)午後 5時30分～

①1学期学校評価についての考察

②重点課題の絞り込みと取組方法

○保護者アンケート

・ 12月 2日(月) アンケート依頼の配付

・ 12月13日(金) 回答しめきり

○児童アンケート、第2回職員アンケート

・ 12月 2日(月)～13日(金)に実施

○アンケート結果の比較・考察(第2回自己評価)

・ 12月16日(月)～1月 9日(火)

○第5回学校運営協議会への諮問(学校関係者評価委員会)

・ 1月21日(火)

○保護者への報告

・ 3月 3日(月) ホームページ上で公開

○南アルプス市教育委員会へ提出

・ 月 日()まで

【 評価方法 】

教職員に対して WEB 上のアンケート機能 (Google Forms) により回答を得た。質問に対しての回答選択肢は、基本的に4段階になっている。

- A：とても・よく~している
- B：だいたい~している
- C：あまり~していない
- D：~していない
- (E：対象外)

このうちAとBは肯定的なプラス評価であり、CとDは否定的なマイナス評価として捉える。AとBのどちらを選ぶかCとDのどちらを選ぶかについては、回答者の判断材料の有無・性格・回答時点の状況等が関係するため A・B・C・Dを厳密に区別して集計することよりもA・B合わせてのプラス傾向C・D合わせてのマイナス傾向として集計する方が全体的な傾向をつかみやすくなる。

そこで A・B・C・Dの選択肢を点数化し A=4 B=3 C=2 D=1として集計し、回答者数で割って平均点数をもとめた。平均点数は次のような意味をもつ。

○全体にプラス評価 (A・B) が多ければ、平均点は2.5以上になり、4点に近づいていく。

○全体にマイナス評価 (C・D) が多ければ、平均点は2.5未満になり、1点に近づいていく。

なお、自己評価まとめの表には、比較として昨年度の1学期の平均点数を載せてある。ただし、「課題・意見」として、C及びD評価をつけた場合に具体的な内容を書いてもらうこととした。

また、回答できない項目については、E：対象外 を設けているが、これについては点数には含めないものとする。今後、保護者のアンケートにも回答の選択肢として E：わからない を設けるが、これも点数には含めない。

第1回職員アンケートの考察

【全体的な傾向】

教職員自己評価の結果は、すべての質問項目において肯定的回答が多数を占めた。平均点数は、全項目で3.2を上回り、学校長の指導のもと、学校教育目標達成のために全職員が努めていることがわかる。

しかし、一つ一つの項目に目を向けると、明らかな有意性は見られないまでも昨年度からポイントが低くなっている項目や、プラス評価ではあるがポイントが相対的に低くなっている項目も見られる。

肯定的な回答が多い項目は、本校の強みとして、継続して取り組んでいくとともに、改善する必要のある項目については具体的な方策を立てて取り組んでいきたい。

【強みとなっている項目 (平均点数が3.6以上)】

- ②すすんであいさつをする指導の充実に努めている
- ⑥児童理解に努め、不登校・問題行動等への予防に努めている
- ⑦生徒指導について、組織的かつ迅速に対応している
- ⑫安全点検を計画的に実施し、危険箇所・修理箇所の対応ができています。
- ⑮保護者からの各種相談について、誠実に対応している

【弱みとなっている項目 (平均点数が3.3以下)】

- ⑤家庭学習を定着させるために工夫している
- ⑧校務分掌は適切に分担され、意欲的に取り組める環境にある
- ⑩校内研究会に主体的に参加し、授業力の向上に努めている

令和6年度 学校評価(後期) 教職員アンケートのまとめ ※項目によっては職員の職務内容上合計数に違いがあります。

* 4段階評価 A: そう思う B: ややそう思う C: ややそう思わない D: そう思わない

	番号	評価項目	評定				R6前期	R5前期	R4R5差	課題・意見
			A	B	C	D				
1 学校生活について	①	子どもたちが、楽しく学校生活を送れるよう努めている。	54%	46%	0%	0%	3.5	3.8	-0.3	・折に触れて、挨拶をしようとは伝えていますが、成果が出ていると言いつらいです。
	②	すすんであいさつをする指導の充実に努めている。	64%	36%	0%	0%	3.6	3.7	-0.1	
2 学習指導について	③	子どもに基礎的な学力が身に付く指導を行っている。	48%	52%	0%	0%	3.5	3.5	0.0	・ICT活用や学び合い、スタンダードなど、学びの手段が目的化しないように気を付けたい。
	④	児童を授業に集中させるための指導(聞く態度)に努めている。	38%	62%	0%	0%	3.4	3.5	-0.1	
3 家庭学習について	⑤	家庭学習を定着させるために工夫している。	26%	74%	0%	0%	3.3	3.3	0.0	・支援が必要な児童には、お家の人をお願いして連絡帳を見たらサインをもらうようにしています。 ・長期休業中の宿題について、市販のワークを購入すれば、「友」はなくしてよい。
4 生徒指導について	⑥	児童理解に努め、いじめ・不登校・問題行動等への予防に努めている。	65%	35%	0%	0%	3.7	3.7	0.0	・管理職の先生方のご協力をいただき、学級・学年・学校で共有できている。
	⑦	生徒指導について、組織的かつ迅速に対応している	63%	37%	0%	0%	3.6	3.6	0.0	
5 学校運営について	⑧	校務分掌は適切に分担され、意欲的に取り組める環境にある。	26%	70%	4%	0%	3.2	3.2	0.0	・昨年度まではPTA保体部の仕事も体育主任が担っていたが、体育部で分担したことは良かった。分掌が重いものについては、1人が多くを背負わないようにすることが今後も大切。 ・業務量に差が出るのは仕方ないが、それを埋める工夫や管理職からの指導があっても良いと思う。 ・今年度、体育主任にプールを担当させたことは良くなかった。来年度は是非もとに戻してほしい。
6 学校行事について	⑨	学校行事は職員の共通理解のもと、子どもたちが楽しく参加できるように計画されている。	44%	52%	4%	0%	3.4	3.5	-0.1	児童は夏休みのプールは猛暑により、実施できないことが考えられます。教師の負担になりますし、ある予定のものがなくなると子どももがっかりすると思うので、はじめから実施しなくてよいと思います。 ・子ども達が楽しみにしているクラブ活動が安全に楽しくできるように、暑さ対策を考慮して日程を検討すると良い。 ・来年度の夏季休業中のプール開設は検討が必要。
7 校内研究について	⑩	校内研究会に主体的に参加し、授業力の向上に努めている。	33%	63%	4%	0%	3.3	3.4	-0.1	・⑩校内研の数が多い。研究授業もないので、校内研を行っている意義が今ひとつ分からない。個別最適な学びを実践している授業を動画等で見たい。 ・⑪個別に支援を要する児童が多くいる中で、明らかに人員が足りていないと感じることがある。 ・いつも、きめ細やかな支援をありがとうございます。特別支援学級の児童だけでなく、学級・学年事務も手伝ってくださりとても助かります。
	⑪	特別支援教育に対する校内支援体制が機能している。	46%	46%	7%	0%	3.4	3.4	0.0	

8 施設・設備・安全管理について	⑫	安全点検を計画的に実施し、危険箇所・修理箇所への対応ができています。	63%	33%	4%	0%	3.6	3.6	0.0	<p>・予想外のところが壊れたりして、修理箇所が多かったり、修繕できないというところもあり、大変だと思います。</p> <p>・⑬不審者に対する訓練をやった方がよい。また、学年の実態に合わせて、防犯教室等を実施するのはどうでしょうか？</p>
	⑬	緊急時の対応(防災・防犯)について共通理解が図られ、計画的に訓練が行われている。	50%	46%	4%	0%	3.5	3.3	0.2	
9 学校と家庭との連携について	⑭	授業参観・懇談会・部会を相互理解のために計画し、工夫・改善に努めている。	46%	50%	4%	0%	3.4	3.6	-0.2	<p>・市内の学校では、開放日を設定していないところがあるようです。いつでも参観してよいとしていけば教師の負担が減ると思います。</p> <p>・⑭学校開放日の時間帯が長い。2校時～3校時まで開放する必要性が分からない。</p> <p>・働き方改革については、県教育長からもメッセージが出た。文部科学省からも「学校・教師が担う業務に係る3分類」が示されている。これらを踏まえ、保護者への理解を進めていかなければならないと感じる。</p> <p>・スポ少やSNS、ご近所付き合いなど、本来保護者の責任であるものを学校に相談されることが増えていると感じる。</p>
	⑮	保護者からの各種相談について、誠実に対応している。	72%	28%	0%	0%	3.7	3.8	-0.1	

【自由記述】若草南小のいいところ、課題となるところがありましたら書いてください。

【よいところ】

- ・いいところは子供らしく元気なところ
- ・子ども達が、素直で明るい。
- ・いいところは、子供が素直なところ。先生方が力のある先生方が多い。
- ・子供たちが明るく素直なところ。先生方も優しく、子供との関係がすごく良いところがいい所だなと感じています。
- ・子供たちが素直で一生涯懸命なところ。
- ・多様な子供たちが多くなってきているが、まだまだ素直な子供が多いことに安心する部分もある。
- ・熱心な職員が多く、職員室が楽しく温かい雰囲気である。
- ・良い 教職員の仲が良く、連携できていること。
- ・職員会議、終礼、支援委員会など様々な機会を通して、児童の共通理解が図られていると思います。いろいろな課題を抱える児童も多い中、担任以外の職員も、その特性や接し方について把握・理解することはとても大切だと思います。
- ・いろいろなことにチームに対応していること。
- ・職員が皆、熱心に働いている。
- ・教員にも子供たちにも助け合いの精神があるところ。
- ・先生方が子供たちにまっすぐ向き合っているところ。
- ・職員同士が、仲が良く、いろんな話が出来る所。特別支援の児童の対応も丁寧。
- ・若手に力があるので、若手同士で成長し合っているところが良い。
- ・先輩の先生方に相談できること。
- ・教職員同士の会話が良く、関係も良好で働きやすいところ。
- ・若手とベテランがそれぞれの良さを生かし、子ども達と日々向き合っているのが良い。働き方改善にむけて、短縮日課が増えたり、欠席連絡フォームを活用したりと少しずつ様々な場面で工夫できていると思います。
- ・児童のあいさつについて、毎年のように課題となっていたが、今年度、児童会の様々な工夫により、少しずつ改善できているように感じます。職員1人ひとりも自ら進んで挨拶できればよいと思います。
- ・職員、児童共にとても明るく活気がある。
- ・チーム若南として教育活動に取り組んでいる先生方が多く、子供たちだけでなく学担へのサポートも手厚いところ。特に、管理職の先生方が、多忙解消への取組を推進してくださったり、支援員の先生、サポートルームの先生、早川先生が、朝の玄関指導・プリントの印刷・宿題の丸つけなどをしてくださったりと、学担の負担を軽減してくださることが本当にありがたいです。
- ・教頭先生の「気になるニュース」がいつも楽しみです。

【課題点】

・課題は、あいさつ

・人手不足

・教科担任制、小中一貫教育、コミュニティ・スクールについて、全職員での共通理解が図れていない。まず、それぞれ誰が中心となってどのように推進していくのかをはっきりさせるべき。

・課 職員会議の資料を紙に印刷していること。若草小と合わせなければいけないことが多く、働き方改革等が進みづらいこと。

・特別な支援を必要とする児童も増え、きめ細やかな指導を行っていくために、人的配置が必要。また、働き方改革については文部科学省が示している「学校・教師が担う業務に係る3分類」を具体的に進めていかなければならないと感じている。

・課題かはわかりませんが、クラス内の支援が必要な子供を担任だけでは抱えきれなくて、でも人もいないので、仕方ないです。

・課題 人手不足。個別に対応したい児童がいるが、人が足りず、できない部分がある。”

・先生方が大変仕事熱心だと思います。毎日朝早くから夜遅くまでお仕事をしています。身体のためにも、できるだけ早く帰宅できるようにみんなで声をかけ合いたいです。そのためにも、教材研究の時間を確保したり、ITの先生をつけてもらうなど、大変だとは思いますが、人材確保をお願いしたいです。

・みなさんギリギリの状態で仕事をしているようで、心配です。作成した教材、プリント、お便りや分掌の資料（委員会）などは、できるだけ共有フォルダに入れて、みんなで使えるようにお願いしたいです。

・どの学校でも問題になっているが、年々個別の対応が必要になる児童が増えて、職員の数がたりないと思う。

・子供たちが、家庭で自治会に参加しないなど、地域の人と触れ合う機会が減っているせいか、地域の目を意識して行動しなくなっているような気がする。

・特別支援の担任まで時間割変更や行事についての重要な情報が伝わらないことがある。一度に来る子供の数が増えると指導に手が回らなくなったり、安全管理ができなくなることもあるので、事前の報・連・相をお願いしたい。

・教員以外のボランティアをもっと活用して、免許がなくてもできる仕事はどんどん振り分けさせていただき、多忙解消をしてほしい。会計は外部に委託できないでしょうか。現金の取り扱いが服務違反予防のためにもやめてほしい。

・勤務時間前や後に日直業務などあることが当たり前になっているが、どうなのか。

・もう少し職員間で語る余裕のある時間がほしいと思います。”

・1学期の始業式が4月4日だったのは、早すぎると思いました。

・給食残菜調べをやることには賛成だが、今年度のように競争性を持たせるのは個人的には反対です。給食を残さないことに対するプレッシャーが子ども達にかかっていないでしょうか？

・職員会議資料は印刷配布になっている。昨年度電子化だったとはいえ、必要な提案は担当者が印刷していたし、県・市ともにペーパーレスを推奨していることもあり、8月より前年度の形に戻していいと思う。

・小中一貫校として連携し、共有することはあるが、若南はこうするというような姿勢があっても良いと思うし、若南から働きかけていけるとさらに改善が進むと思う。

・集金については、引き渡しカード紛失未遂もあったので、貴重品管理の面から児童が現金を持ってきて教員が管理するのは紛失時のリスクが大きく不安である。また、集計・振り込み等の業務が減ることも大きなメリットだと思う。振り込みに向けた協議を、すすめてほしい”